

観光交流で尊敬される日本に

国連世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋観光交流センターなどが主催する「観光交流促進シンポジウム」が6月9日、モンゴルの首都ウランバートルで開催された。旅行会社、自治体など日本から100人が参加。モンゴル側は旅行会社、マスコミなど260人が出席した。

UNWTOは、「持続可能な観光」を通じて「貧困の撲滅」という世界目標(ロジェクト)を進めている。日本の海外旅行者数は年間約1千8百万人。日本人観光客がモンゴルを訪れることで、ホテルや土産代などが現地に支払われれば、日本の政府開発援助(ODA)71億6300万円(04年度)に匹敵する経済効果が期待できる。「世界から尊敬される日本」をめざす戦略的「観光外交」の一環として、本シンポジウムは開催された。



両国から370人が参加した

主催者あいさつ



JATA 理事長 梅田 春実氏

UNWTOの05年統計によると、特に団塊世代の7百万人に比べ約1万3千人の日本人がモンゴルを訪れた。一方、時間的にみると、モンゴルは歴史のみにあらず、多岐にわたる民族という点、チンギス・ハーンはモンゴルの強さを象徴している。先日、横濱白鵞が誕生し、大相撲の最高位である東西の両横綱の地位をモンゴルの力士が占めるようになった。多くの日本人があらためてモンゴルの力を強く感じている。

観光デスティネーションとしてのモンゴルの魅力は多岐にわたっているが、まだ十分に日本人に知られていない。

今年日本・モンゴル外交関係樹立35周年記念の年、この記念すべき年に本シンポジウムを首都ウランバートルで開催することは大変有意義だ。

日本からあつちの代表団の皆様には、この機会にモンゴルの歴史と文化遺産についてできるだけ詳しく知っていただきたい。また、モンゴル観光の特色であるエコロジーと伝統文化をお伝えしたい。

外交関係樹立以来、日本とモンゴルは活発な文化交流を続けてきた。同時に、日本からの多大な政府開発援助(ODA)に

対して、モンゴル政府と国民は大変感謝している。

シンポジウムを通して両国の友好関係がさらに深まることを望んでいる。

国土交通省顧問 丸山 博氏

06年の全世界の外国旅行者数は対前年比4.5%増の8億4千2百万人となった。外国旅行者数は05年に比べて3千6百万人増加した。

そのうちアジア太平洋地域は1千2百万人増加し、シェアは33%だった。アジアは7.6%増、内訳をみると、北東アジアが7.4%増、東南アジアが9%増、オセアニアが0.3%増、南アジアが10.1%増となっている。オーストラリアを含むオセアニアの落ち込みが激しい。

06年はアジア太平洋地域全体で1千2百万人を超過し、外国人旅行者の増加が顕著な地域となった。アジア太平洋地域の中でも、域内のシェアが78%を占めている。ほとんどがアジアからアジアへの旅行者だ。

モンゴルの外国人旅行者の増加を考えた場合、アジア太平洋地域からの旅行者を伸ばすことが最も有効と思われる。

最後に07年のツーリズムを概観する。全世界の好ましい経済状況の中で、GDPは4.9%増、世界平均の3.5%の倍となっている。日本は9%の伸びを示している。アメリカ地域は1%の伸びにとどまっている。アジアはこのうち8%増の1億8千万人になると予測される。

基調講演/講演

UNWTOアジア太平洋センター代表 本田 勇一郎氏

06年の世界外国旅行者の地域別訪問人数では、アジア太平洋地域は1億6700万人で世界全体のシェアは20%。アジアを含むオセアニアの落ち込みが激しい。

06年はアジア太平洋地域全体で1千2百万人を超過し、外国人旅行者の増加が顕著な地域となった。アジア太平洋地域の中でも、域内のシェアが78%を占めている。ほとんどがアジアからアジアへの旅行者だ。

モンゴルの外国人旅行者の増加を考えた場合、アジア太平洋地域からの旅行者を伸ばすことが最も有効と思われる。

最後に07年のツーリズムを概観する。全世界の好ましい経済状況の中で、GDPは4.9%増、世界平均の3.5%の倍となっている。日本は9%の伸びを示している。アメリカ地域は1%の伸びにとどまっている。アジアはこのうち8%増の1億8千万人になると予測される。

交流シンポジウムモンゴル

モンゴル道路・交通・観光省副大臣 G. シーリグダンバ氏

はじめに、今後はウランバートルのチンギス・ハーン国際空港に着目し、その場で査証を発行することを検討中だ。在日モンゴル大使館での査証発給手続の引き上げも検討する。将来的に両国間で査証相互免除が実現すれば素晴らしいと思う。

「ミットモンゴル航空」のCEO幹部とともに村山開西空社社長、大阪府和歌山県、神戸市の方々と本日会談した。開西空社の第2滑走路が8月2日に供用開始になるので発着便数を増やして欲しいという申し出を受けた。モンゴルの観光シーズンは5月から10月。増便は観光シーズンの中で検討する。

シンポジウムの中で「JATAメンバー」達は、モンゴルは食事がおいしい、ホテルの質も高いと評価していた。

09年にはウランバートル市内に5つ星のシャングリラ・ホテルが開業する。サバイ・ホテルも増える。

日本からの受入態勢を整える

道路・交通・観光省の副大臣に単独インタビューを行った。シンポジウムの感想として、両国の観光文化交流を促進して大変意義深かった。モンゴルを訪れる日本人観光客は年間約1万3千人。まだまだ少ない。日本人観光客誘致のため、観光施設の拡充や日本語ガイドの養成など様々な受け入れ体制を整えていきたい。

日本人観光客に査証の取得が義務づけられていること、日本からモンゴルへの直行便が少ないことなどが、障害になっているのではないかと指摘した。

04年から団体査証の発行を始めた。今後はウランバートルのチンギス・ハーン国際空港に着目し、その場で査証を発行することを検討中だ。在日モンゴル大使館での査証発給手続の引き上げも検討する。将来的に両国間で査証相互免除が実現すれば素晴らしいと思う。

「ミットモンゴル航空」のCEO幹部とともに村山開西空社社長、大阪府和歌山県、神戸市の方々と本日会談した。開西空社の第2滑走路が8月2日に供用開始になるので発着便数を増やして欲しいという申し出を受けた。モンゴルの観光シーズンは5月から10月。増便は観光シーズンの中で検討する。

シンポジウムの中で「JATAメンバー」達は、モンゴルは食事がおいしい、ホテルの質も高いと評価していた。

09年にはウランバートル市内に5つ星のシャングリラ・ホテルが開業する。サバイ・ホテルも増える。

単独インタビュー

「JATAメンバーとモンゴル旅行業界による意見交換」

JATA・国際業務室副部長 片桐美徳、日本通運・首都圏旅行支店営業第1課課長 大塚弘久、JTB西日本・西日本海外旅行団体販売部航空第1課長 藤村琢、日本旅行・営業企画部海外旅行事業部主任 村上信二、KNT・首都圏ホリデイ事業部ホリデイ企画4課 逸見千明、エーベックスインターナショナル・代表取締役社長 村井哲夫、阪急交通社・東日本営業本部メディア営業2部担当課長 田中慎二 (敬称略)

モンゴル観光交流促進シンポジウム

開催日: 2007年6月9日(土)
 場所: モンゴルウランバートル市 STATE HOUSE (国会議事堂) メインホール

主催: 世界観光機関(UNWTO)、国土交通省、モンゴル道路・交通・観光省、アジア太平洋観光交流センター(APTEC)
 後援: 在モンゴル日本国大使館 協力: 日本旅行業協会(JATA)、日本財団

開会式
 主催者あいさつ: モンゴル政府内閣官房長官、日本・モンゴル外交関係樹立35周年記念実行委員会委員長 S. バドボルト、モンゴル道路・交通・観光省副大臣 G. シーリグダンバ、国土交通省顧問 丸山博、世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター代表 本田勇一郎
 来賓あいさつ: 在モンゴル日本国大使館特命全權大使 市橋康吉、関西国際空港代表取締役社長 村山敬

基調講演
 「モンゴル観光の現状」モンゴル道路・交通・観光省観光局長 G. ヨンドゴンボ
 「2006 2007年 世界・アジア観光概観」世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター代表 本田勇一郎

講演
 「日本人観光客にとってのモンゴル観光」日本旅行業協会(JATA)理事長 梅田春実
 「観光における鉄道役割と可能性 日本の事例」JR西日本グループ 嵯峨野観光鉄道代表取締役社長 長谷川一彦
 「モンゴルの文化、自然の魅力」札幌国際大学教授 松田忠徳
 「モンゴルの観光資源と商品開発」持続的ツーリズム開発センター所長 D. ガンテムール
 「民族観光 西モンゴル」ホブドにおける観光開発事例」モンゴル国ホブド県知事 G. ニヤムダヴァー

観光ワークショップ
 「JATAメンバーとモンゴル旅行業界による意見交換」
 JATA・国際業務室副部長 片桐美徳、日本通運・首都圏旅行支店営業第1課課長 大塚弘久、JTB西日本・西日本海外旅行団体販売部航空第1課長 藤村琢、日本旅行・営業企画部海外旅行事業部主任 村上信二、KNT・首都圏ホリデイ事業部ホリデイ企画4課 逸見千明、エーベックスインターナショナル・代表取締役社長 村井哲夫、阪急交通社・東日本営業本部メディア営業2部担当課長 田中慎二 (敬称略)

国連世界観光機関(UNWTO)
 観光の振興・発展により世界の経済的発展、国際平和、人権尊重などに寄与することが目的。1975年に設立、2003年国連観光機関に昇格。本部はスイスのマドリッド。加盟国数は150カ国。

世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター(本田勇一郎代表)
 アジア太平洋地域の観光交流拡大を目的に1995年、大阪に設立されたWTOの地域センター。アジア太平洋地域の25カ国・2地域が加盟・準加盟している。

アジア太平洋観光交流センター(APTEC) 野村明雄会長=大阪商工会議所会頭、本田勇一郎理事長
 UNWTOアジア太平洋センターの活動支援を主な目的として1995年、大阪に設立された財団法人。同センターと一体で活動している。

モンゴル国

概要

面積 156万6500平方キロ(日本の約4倍)
 人口 約256万人(日本の約50分の1)。人口の約半分がウランバートルに集中
 首都 ウランバートル(特別市)
 気候 大陸性気候で年間を通じて乾燥している。3月下旬から9月下旬はサマータイムで時差なし。通常は日本より1時間遅れ。
 旅行 5月から10月が比較的過ごしやすく、旅行シーズン。11月から4月は極寒。日本からモンゴルへの旅行者数は1万3092人(04年度)。
 航空 ミアットモンゴル航空がウランバートルまでの直行便を運航している。成田から週3便(11月～3月は週2便)。開空から週2便(7・8月のみ)。中部から週1便(7・8月のみ)。
 通貨 単位はトゥグルグ(Tg)。10トゥグルグ=約1円
 民族 ハルハ族が約75%。他にカザフ族、バヤド族など。
 言語 モンゴル語(表記はキリル文字=ロシアのアルファベット)
 宗教 モンゴル仏教(ラマ教)、イスラム教など。
 高度 全土平均で海拔1580m。ウランバートルも海拔1351mと高い。

豆知識

生活 ウランバートル市以外に住む多くのモンゴル人は、今でも移動式テントのゲルに居住し、伝統的な遊牧民の暮らしをしている。

相撲 日本の大相撲はモンゴルでも放送されている。モンゴル出身の力士、白鵞、朝青龍、旭鷲山らは国民的英雄。

土産 民族衣装(デール)、馬頭琴(モリン・ホル)カシミア製品、革製品など

援助 モンゴルに対する日本の政府開発援助(ODA)は71億6300万円(04年度)。そのうち政府貸付を除いた贈与分は49億7600万円。大相撲とODAの影響もあり親日感情は非常に強い。

感情

モンゴル相撲 トーナメント戦で優勝者を決める。

きらびやかな民族衣装

ロシア建築の外観が目目を引く自然史博物館。世界有数の恐竜化石の産地、ゴビ砂漠で出土した化石・標本などを展示

ゲルに住む遊牧民の子供

モンゴル相撲の馬頭琴(左)はまるで二本弦のチェロ

チンギスハーンの騎馬軍団を再現するアトラクション

1838年に建てられたチベット仏教寺院「ガンタン寺」。高さ25mの観音像がある